

「クラシノコアゲ応援団 2017 街頭行動」 第13弾

生活弱者をつくらない、誰もが活躍できる社会を創ろう!

～県内5地域で一斉に開催～



第13弾は連合福島と県北地域連合による合同開催

正規で働く方の拡大は、格差の問題、そして低所得へつながり、ひいては子育てや教育問題にも直結する問題へと連鎖しており、その連鎖を解消することが重要と考える。我が国は子供の貧困率が高く、子供の6人に1人が貧困の状態にあり、親から子への連鎖の実態は否定できない。子育てと教育政策は、未来創造の不可欠な政策と考える。また学生の奨学金制度も、経済的事情で教育の道が閉ざされることの無いよう、低利子ではなくできれば無償化、高額返済の負担軽減などさらなる拡充を求めていく。さらに、働き方改革にも迫られており、長時間労働の問題や同一労働同一賃金の問題。これらは、技術革新に伴う産業構造など変革の時代の要請であり、乗り越えなければならない課題となっている。連合福島は、これら諸課題の解決に向け全力で取り組むと同時に、地域社会における生活弱者を助けることは尊いが、むしろ弱者をつくらない政策をもっと大事にしながら取り組みを進めたい。いずれにしても福島の復興の加速そして地方創生は喫緊の課題であり、連合福島もオールふくしまの一員として総力を挙げたい。市民の皆さんの賛同をお願いしたい。」と挨拶した。

続いて、共同行動の県北地域連合の各地区連合から、現状課題のアピールをした。最初に、高橋誠一伊達地区連合議長は長時間労働問題の是正、健全な働き方を問題提起した。続いて、高橋 誉二本松安達地区連合議長からは、最低賃金の福島県水準の低さと大幅引き上げの必要性などを訴えかけた。最後に、伊藤秀治県北地域連合議長がすべての労働者が一丸となって暮らしの底上げ実現

連合福島は、クラシノコアゲ応援団を組織し、この間毎月1回定期的な街頭行動を展開、この度5月24日(水)17時30分～福島市内中合前ツイン広場において第13弾の街頭行動を実施した。

冒頭、クラシノコアゲ応援団長の今泉 裕連合福島会長は、「連合福島はすべての働く方の処遇改善に結び付くよう、安心して働ける環境づくりに挑戦している。今日の非



市民に訴える今泉裕会長

に向け「がんばろう」を三唱し、連合福島と県北地域連合共同の総行動を締めくくった。



左より 高橋誠一伊達地区連合議長、高橋誉二本松安達地区連合議長、伊藤秀治県北地域連合議長、司会を担当した紺野淳県北連合事務局長